【特別支援学校用】

令和５年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀県立大和特別支援学校

1　前年度 評価結果の概要	・学校関係者評価では１１項目中A評価が７項目、B評価が４項目、C評価が０項目となった。 ・「児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着」「児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動」「児童生徒が夢や希望をもち、将来の自立と社会参加に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動」「ICT機器を活用した効果的な授業や支援の実施」これらの評価項目については、引き続き改善を図っていく必要がある。
2　学校教育目標	「たくましく自立し、積極的に社会に参加する人間の育成」 ・子ども一人一人のニーズに応じた最適な対応に努めることにより、子どもが自分の力を発揮しながら自立的・主体的に取り組む姿を実現し、将来の自立的・主体的な地域生活へつなげていく。
3　本年度の重点目標	①　自立活動の指導目標、指導内容、指導場面を明確に示した指導計画を作成し、指導の改善を図る。 ②　カリキュラムマネジメントを推進し、教育課程の改善を図る。 ③　ICT機器の効果的な活用を図る。 ④　業務の効率化と時間外勤務を削減し、働き方改革を推進する。

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5　最終評価

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	●「子どもに合った授業が行われ、自ら主体的に授業に参加するようになった」と回答した保護者の平均が3.2以上 ●「自立活動の指導目標、指導内容、指導場面を明確にして授業を行った」と回答した教職員の平均が3.0以上	・自立活動の指導では、児童生徒の活動場面を確実に設定し、指導内容を実施する。 ・自立活動の指導に関する自主研修会を年間4回実施する。 ・自立活動の作成マニュアルを修正する。		・		・		・	教務部
	○「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業づくり	○「教師は子どもの実態に合わせた授業を展開し、指導や支援を行っている」回答した保護者の平均が3.2以上 ○「学年やグループで児童生徒の実態や授業の手立てについて話し合い、授業実践に役立てた」と回答した教職員の平均が3.2以上	・月に1度、学年やグループで振り返りの時間を設ける。 ・研究テーマに沿った子どもの姿や手立てを考え、各学部で授業改善シートを作成する。 ・研究テーマに関する研修会を年に2回実施する。		・		・		・	教育研究部
	○進路指導とキャリア教育の充実	○児童生徒にとって、「卒業後の生活に必要な力をつけるための教育が行われている」と回答した保護者の平均が3.1以上 ○「卒業後の生活に必要な力をつけるための教育に努めている」と回答した教職員の平均が3.1以上	・学部別に保護者への進路講話や進路だよりなどの情報提供のための資料の充実を図る。 ・キャリアパスポートの活用状況を確認し、担当職員でフィードバックする場を設ける。		・		・		・	進路指導部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●心の教育活動や生命を尊重する教育に取り組むことができていると回答した教職員の平均が3.0以上	・特別の教科道徳や特別活動、各教科等の授業で思いやりや豊かな心を育む教育活動の充実を図る。 ・交流及び共同学習や学校行事等で、他者と関わったり多様な体験活動を実施したりする。		・		・		・	各学部 学習部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●学校はいじめを許さない学級、人間関係作りに取り組んでいると回答した保護者の平均が3.0以上 ●いじめを許さない心や態度、相手の気持ちを尊重した良好な友達関係になるような言葉掛け、授業に取り組んでいると回答した教職員の平均が3.0以上	・生徒同士のトラブルについて、いじめと認識したうえで、早急に学年、学部間で連絡、相談、報告を行い、具体的な手立てを計画、実践する。 ・年に2回以上、いじめ防止や人権尊重を意識した研修や授業実践を行う。		・		・		・	生活指導部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生は子どものよいところを認めてくれていると思う」と回答した保護者の平均が3.2以上 ●「将来の夢や目標を持てるように授業を工夫した」と回答した教職員の平均が3.2以上	・児童生徒の自己肯定感が高まるように、できていることを伝えたり、仲間同士で認め合ったりする場面を設定する。 ・児童生徒が「自分は人のために役に立っている」「ありのままの自分に満足している」「自分は成長している」「自分はチャレンジしている」と感じることができる授業を実施する。		・		・		・	各学部
●健康・体つくり	❸「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	❸「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の平均が3.0以上	・特別活動、保健体育などの授業や給食指導等における食に関する指導支援の充実を図る。 ・給食だより、保健だより、学年だより等で保護者への啓発を行う。 ・児童生徒へのアンケートを実施する。		・		・		・	保健環境部
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	●「支援部だよりが役に立った」と回答した地域の学校の平均が3.2以上 ●「支援部だよりへの教材教具等の資料の提供を通して、地域支援の一端を担った」と回答した職員の平均が3.0以上	・各学部ごとに「支援部だより」の係を設け、職員への啓発活動を行う。 ・各クラス、寄宿舎から年に1回、支援部だよりに掲載する資料を提供してもらうように計画し、依頼する。 ・支援部だよりを年に2回発行し、後期にアンケートを実施する。		・		・		・	教育支援部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●「定時退勤日は18時までに退勤した」と回答した職員の平均が3.4以上 ●「年間10日以上の年次有給休暇を取得した」と回答した職員の平均が3.4以上	・時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・毎週水曜日に定時退勤日を設定し、18時までに退勤するように促す。 ・年次有給休暇を取得しやすい行事計画の見直しをする。		・		・		・	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○学校経営方針	○教育目標に即した教育の実践	○「本校に入学させてよかった」と回答した保護者の平均が3.5以上 （寄宿舎） ○「寄宿舎に入舎させてよかった」と回答した保護者の平均が3.2以上	・子どもや保護者の気持ちを受け止め、子どもが今日の学び・学校生活に満足し、明日の学び・学校生活を期待する教育活動を実施する。 （寄宿舎） ・互いに理解し尊重しあう温かな人間関係を育むため、舎生会での活動や季節の楽しい行事等を検討する。		・		・		・	管理職 各学部
○教職員の専門性の向上	○カリキュラムマネジメントによる教育課程の推進	○「授業をチームで考え、授業改善を行った」と答えた職員の平均が3.0以上 （寄宿舎） ○「生徒がいきいきと生活できる寄宿舎にするための研修を行うことができた」と答えた職員の平均が3.0以上	・各学部で教育課程の見直しを行い、小中高の各教科等の学びが一貫したものになるように教育課程を編成する。 ・自立活動の時間の指導の設置を検討する。 ・カリキュラム委員会を年間5回実施する。 （寄宿舎） ・自主性、主体性を育む指導支援を行うための研修を行う。		・		・		・	教務部 各学部
○ICT活用教育	○ICT機器を活用した効果的な授業や児童生徒への支援の充実 ○ICT機器に関わる研修	○「電子黒板や一人一台端末といったICT機器の機能を効果的に活用して授業に取り組んだ」と回答した教職員の平均が3.1以上 ○「ICTに関わる研修を受講して、授業に生かすことができた」と回答した教職員の平均が3.1以上	・ICT機器を効果的に使用できるように、電子黒板やその代わりになるモニター等を必要箇所に配置したり、児童生徒の実態に応じてiPadまたは学習用PCを配布したりする。 ・校内でICTに関わる研修を年1回以上開催したり、掲示板でICT活用に関わる資料を回覧したりする。ICT機器を使った簡単に使える便利な機能や活用事例などを紹介し、授業に活かせるような研修内容にする。		・		・		・	教育情報部

●・・・県共通　○・・・学校独自　❸・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・